

三年丙寅へいゐんの秋九月十五日あきに、播磨国はりまのくにの印南野いなみの
に幸いでます時に、笠朝臣かさのあそみ金村かなむらの作つくる歌一首 并あはせ
て短歌たんか

九三五番

名寸隅なきすみの 舟瀬ふなせゆ見みゆる 淡路島あはぢしま 松帆まつほの浦うらに
朝あさなぎに 玉藻刈たまもかりつつ 夕ゆふなぎに 藻塩もしほや焼きつ
つ 海人あま娘子をとめ ありとは聞きけど 見みに行ゆかむ よ
しのなければ ますらをの 心こころはなしに たわや
めおもの 思おもひたわみて たもとほり 我あれはそ恋こふる
舟ふね梶かぢをなみ

反歌二首はんか

九三六番

玉藻刈たまもかる 海人あま娘子をとめども 見みに行ゆかむ 舟ふね梶かぢもが
も 波なみ高たかくとも

九三七番

行き巡ゆめぐり 見みとも飽あかめや 名寸隅なきすみの 舟ふな瀬せの浜はま
に しきる白波しらなみ